



あくていぶ21 矢野 仁志 議員

1 施政方針について

質問1(1) ハザードマップの見直しについては。

答弁1(1) 今後、情報に変更が生じた場合には、わかりやすく標高等も表示して、各家庭に配付したいと考えている。

質問1(2) 本市の防災体制について、もう少し連携を行うことはできないものか。

答弁1(2) 早急にさまざまな危機への対応ができる危機管理の窓口として、起点となる部署をつくり、将来的に防災だけではなく、あらゆる危機管理の窓口を担う部門として格上げしたいと考える。

質問1(3) 健康で暮らせるまちの実現に向けての取り組みについて。

答弁1(3) 3月に策定した「鈴鹿市健康づくり計画」において、各年代に応じた健康づくりの取り組みを個人・家庭・地域・行政に分けて示し、それをもとに健康づくり施策の推進に努めたい。

質問1(4) 財政問題について、特定企業ありきの財政を考えるのではなく、無かった場合のことを想定して予算を組む時期に来たのではないのか。

答弁1(4) 予算編成に当たっては、財政規律を守るため、歳入規模に見合った歳出予算編成が重要と考える。市税や地方譲与税、各種交付金などその年度内に収入しうる範囲内での歳出事業の規模とすることを基本として予算編成に努めたい。



すずか倶楽部 後藤 光雄 議員

1 市長の施政方針について

- (1) 安全で安心できるまちづくりとは
- (2) 健康で暮らせるまちづくりとは
- (3) 活力を創り出すまちづくりとは

質問1(1) 本年より設置予定だった、全国80%で整備されている街中に危険を知らせる同報系防災無線の予算計上を見直したのは何故か。

答弁1(1) 国・県の防災会議が、地震の想定を見直しているのので、その結果を受けてから市の防災計画を見直し整備計画を検討することとした。

質問1(2) 在住の外国人児童への日本語教育だけでなく日本人児童への日本語教育を充実させる考えはないか。また教育環境整備が進まない中、中学校の完全

給食を急いで実施しようとするのは何故か。

答弁1(2) 改訂学習指導要領の趣旨に従い日本人としての素養を身につけさせる指導の充実に努める。中学校給食は「子どもに対する食育の場」「子育て支援」として捉えて早期に実施していく考えである。

質問1(3) 活力を生み出す為には子どもの時からの農業体験が必要と考えるが、市民農園を拡充する考えはないか。またNTT研修センタ跡地へのスポーツ施設整備で集客を図ると公約していたが、その取り組みはどのようにするのか。

答弁1(3) 農業の教育的効果も認め、生産者、関係団体、県市が一体となって農業を活性化していく。スポーツ施設の整備は、総合的・全市的に整備方針の整理をしてから計画的な整備に努めていく。



公明党 池上 茂樹 議員

- 1 防災・減災対策について
- 2 福祉政策について
- 3 機構改革について

質問1(1) 災害時の情報伝達手段として、同報無線が有効だが、早期整備の考えは。

答弁1(1) 同報無線の整備については、鈴鹿市防災計画も含め、あらゆる視点から再検討する。今後、エリアメールも有効活用していきたい。

質問1(2) 津波の被害が想定される地域のビルやマンションの高台を、避難場所として提供してもらえるよう民間施設と災害協定を結べないか。

答弁1(2) 「津波避難ビル」として使用させていただけるよう民間施設への協力をお願いする。

質問2(1) 子育て世代の経済的、精神的な負担軽減を図る意味では、乳幼児医療費助成を拡大すべきと思うが、また窓口負担のいらぬ現物給付の考えは。

答弁2(1) 乳幼児医療費助成の拡大は、県の動向を見極め適切な時期に判断する。経済的負担を軽減するため、中学生の入院はできれば今年度中に拡大する。

質問2(2) 子育て支援と捉え中学校給食を早期に実施すべきと思うが市長の決意は。

答弁2(2) 遅くとも平成27年4月までに中学校給食をセンター方式で実施していきたい。

質問3 災害や新型インフルエンザ・鳥インフルエンザ等、さまざまな危機管理に対応する危機管理部の設置が重要と思うが。

答弁3 防災だけでなくあらゆる危機管理を担う部門として格上げしていきたい。